

農業振興活動

市内産農産物の生産振興活動

昨今の世界情勢の中、原材料価格の高騰をうけた各種の値上げにより農業経営に打撃を受けた農家を対象とした国・県の肥料価格高騰対策事業（秋肥料分）申請者 52 件、市の肥料・農業燃料等高等緊急支援金申請者 500 件の申請支援を行いました。

また、土壌診断の実施や診断に基づく施肥設計等を勧め有機質肥料へ移行を促したり、千葉県農業事務所や農業センター等、関係機関と連携した減化学肥料栽培講習などを開催し、減化学肥料に取り組み、農家の肥料コストの削減に寄与しました。

労働力不足に対しては、梨ボランティアや酪農ヘルパー事業を継続実施しました。また農業無料職業紹介事業は、78 件の紹介依頼に対し 8 件のマッチング成約となり、前年から引き続き行った JA 全農ちばと JT B と連携した労働力支援対策では、ダイコン洗浄選果施設に最大 6 名の労働力を補完しました。

安全・安心への取り組み

JGAP 指導員を中心に GAP 基準の周知を徹底するとともに現在取得している JGAP 認証の維持・拡大に取組み農産物の安全・安心に努めています。

※ JGAP:「日本(Japan)の良い(Good)農業(Agricultural)の取り組み(Practice)」の略。食品安全・労働安全・環境保全・人権福祉など持続可能な農業経営への取り組みに与えられる認証のこと。

地産地消の推進活動と食育への取り組み

千葉県の銘柄である「粒すけ」（市原産）を市原市の依頼により、市原市内保育所、幼稚園、小中学校、地産地消協力店等へ約 42,000 袋（@500 g）配布するとともに、2 年ぶりに開催された「いちほら大収穫祭（旧農林業まつり）」でも、無料配布を行い（各日先着 1,000 人）消費拡大に向け PR しました。

直販係による販売振興

市原市の特産品である梨・イチジク・ダイコンの加工原料の販売強化とキャベツ・ブロッコリー等の加工・業務用野菜の販売量拡大に取り組むとともに、市内ゴルフ場（4 カ所）や学校給食への直接販売に努めました。